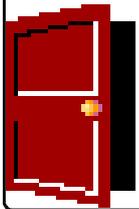


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

No.60

桑村小学校令和5年10月25日 文責 渡邊

## 幼児期の「遊び」は豊かな感性を育む!!

今回も、前号に続き、東京都大田区教育委員会幼児教育センターが発行している『幼児教育センターだより』（平成30年春号）の資料から、幼児期の「遊び」は豊かな感性を育むということについて考えてみたいと思います。

〈砂遊び〉

手に取ることでサラサラ・ザラザラした感触を知り、大人が、「サラサラだね」と言葉を添えることで、言葉の獲得へと繋がっていきます。

砂を身近なプリンやゼリーカップに入れてケーキやご飯に見立て、砂に少し水を含ませることで、砂の色の変化に気付いたり、型ぬきで色々な形に変化する砂は立体的なものを作ることに繋がっていきます。

（『幼児教育センターだより』（平成30年春号）より）

〈水遊び〉

手で触れることで、冷たさや気持ちよさを感じます

水も身近なカップなどにいれると、ジュースやスープ、更に砂を足すとコーヒーなどにも見立てが変化していきます。食紅を混ぜると色水に変化し、そこに、和紙や障子紙を入れると染め紙ができます。染めた紙は折り紙にも変化します。

（『幼児教育センターだより』（平成30年春号）より）

上記にあるように、砂や水を使った「遊び」では、幼稚園教諭や保育士の適切な支援のもと、子供たちは各々の「遊び」を楽しんでいます。特にすばらしく感じたのは、砂遊びの実践で、「手に取ることでサラサラ・ザラザラした感触を知り、大人が、『サラサラだね』と言葉を添えることで、言葉の獲得へと繋がっていきます。」のところでした。

幼児教育でも、言葉を介して「豊かな感性」の育成を図ろうとしていることが伺えます。子供たちは、いろいろなものを見たり、いろいろな音を聞いたり、匂いを嗅いだり、手で触れたり、ときには食べたりすることで様々な感覚を獲得し、言葉とつなげることでイメージを膨らませ、自分の感性を育んでいくのだと思います。

1年生の生活科では、アサガオを育て、その生長を観察する学びがあります。植物を育てるといった活動は、園でも経験しているかもしれませんが、その生長を観察し記録するのは小学1年生の学びです。

かんさつカードには、「はっぱがはあとみたいだったよ」とか、「あまいにおいがしたよ」、「こどものはっぱはそんなでもないけどおとなのはっぱはざらざらしていたよ」ということが書かれていました。それぞれが五感を働かせた意見を書くことができています。

やがて、感性を育んだ子供が、アサガオに耳を近づけたとき、「あさがおがまいにちみずをくれてありがとうといったよ」という声が聞こえたら素敵ですね！



【1年生の観察カード】